

授業科目	*看護過程論				単位	2		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11208J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子、石井 奈央							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>あらゆる健康レベル、あらゆる発達段階にある看護の対象者に対し、対象者のニーズを充足するための看護実践に必要な看護過程の基礎的知識と方法を学ぶ。授業は、講義及び事例(紙上患者)を用いた6~7名によるグループ学習活動を軸に展開する。</p> <p>実務家教員として、医療現場で培った各健康段階に応じた看護(救急、超急性期、急性期-周手術期含む、回復期、慢性期)に必要な基礎的知識・技術の活用を前提に、2年次前期の学生を対象に、「心不全」患者の事例を用いて、看護実践の基盤となる看護過程展開能力の育成を図る。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護実践の方法論である看護過程について、その展開(アセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価)に必要な基礎知識を修得することができる。 科学的根拠に基づく看護(=EBN)を提供することの意義と必要性が理解でき、根拠に裏づけされた看護を実践しようとする姿勢を身につけている。 看護過程の基本的な考え方(問題解決的思考・クリティカルシンキング)を身につけ、看護アセスメント力を高めることができる。 看護過程における法的・倫理的課題を明らかにして述べることができる。 看護とは、看護の対象とは、患者中心の看護とは、看護者とは、を自らに問い続けることができる。 看護実践に必要な基礎的知識・技能を学修する機会として、授業(講義・グループワーク)に主体的・積極的に取り組むことができる。 対象者のニーズを満たす個別的な看護実践のための看護過程の一連のプロセスが展開できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	10	20	20	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	50	10					60	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			20		20		20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				10			10	
態度(DP4-2)				10			10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護過程とは何か説明できる。 看護過程の歴史的発展とその理論的背景を述べるができる。 				<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護過程とは何か説明できる。 看護過程の歴史的発展とその理論的背景が理解できる。 看護過程を用いることの意義と重要性がわかる。 				

<p>3.看護過程を用いることの意義と重要性を述べるができる。</p> <p>4.看護過程における法的・倫理的課題を述べるができる。</p> <p>5.看護過程の構成要素(アセスメント・看護問題の明確化/看護診断・計画立案・実施・評価)と看護過程のプロセスについて述べるができる。</p> <p>6.アセスメント・ツール:M.ゴードン「11の機能的健康パターン」について、各パターンの定義、望ましい状態、アセスメント視点及び予想される看護問題を挙げるができる。</p> <p>7.アセスメントツールを活用し、収集した情報を適切に分類・整理する意味と必要性が説明できる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>1.全パターンについて、既習の知識・理論に基づく情報の分析(解釈・判断)ができる。</p> <p>2.全パターンのアセスメントを基に、紙上患者の看護問題を導き出すことができる。</p> <p>3.導き出した看護問題の原因と成り行きを考え、観察、援助、教育の観点から、問題解決に必要な援助を思考できる。</p> <p>【態度/関心・意欲】</p> <p>1.遠隔授業(講義)の際、毎回、途中退出することなく聴講できている。</p> <p>2.遠隔授業(GW)の際、その都度、積極的に参加し、自分の意見を口頭またはチャットでよく発信できている。</p> <p>3.根拠に裏づけされた看護を実践しようとする姿勢を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>1.看護アセスメント(情報収集・情報分析・看護上の問題の明確化/看護診断)が的確に行える。</p> <p>2.問題解決のための看護計画が適切に立案できる。</p> <p>3.事例を用いたグループ学習をとおして、問題解決的思考を基盤とする基本的な看護過程が展開できるようになる。</p>	<p>4.看護過程における法的・倫理的課題を明らかにできる。</p> <p>5.看護過程の構成要素(アセスメント・看護問題の明確化/看護診断・計画立案・実施・評価)と看護過程のプロセスを説明することができる。</p> <p>6.アセスメント・ツール:M.ゴードンの11の機能的健康パターンのうち、特定の1~2パターンについて、定義、望ましい状態、アセスメント視点及び予想される看護問題を述べるができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>1.収集した情報(群)と自分自身の気がかりを基に、どのパターンの分析が必要か判断できる。</p> <p>2.特定した1~2パターンについて、既習の知識・理論に基づく情報の分析(解釈・判断)ができる。</p> <p>3.事例患者の個別性を捉えたアセスメントが記述できる。</p> <p>4.1~2パターンのアセスメントを基に、考えられる看護問題を導き出すことができる。</p> <p>5.導き出した看護問題を引き起こしている原因を明らかにし、その解決に必要な援助を理由(根拠)とともに述べるができる。</p> <p>【態度/関心・意欲】</p> <p>1.遠隔授業(講義・GW)に積極的に参加しようとする姿勢が窺える。</p> <p>2.根拠に基づく看護(EBN)を実践しようとする姿勢が窺える。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>1.看護のアセスメント(情報収集・情報分析・看護上の問題の明確化/看護診断)ができる。</p> <p>2.問題解決のための看護計画が概ね立案できる。</p> <p>3.事例を用いたグループ学習をとおして、問題解決的思考を基盤とする看護過程の基本的な展開方法が習得できている。</p>
--	--

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	授業ガイダンス, GWオリエンテーション(小田日出子) ・看護過程とは何か、定義の説明 ・看護過程の歴史的発展とその理論的背景について解説 ・看護過程の基本構造について解説 看護診断過程-1(事実の情報化)(講義:小田日出子) ・情報収集の目的と手段・方法 ・情報の種類(主観的情報と客観的情報)	■全体講義	[予習] ・事前学習課題に取り組もう。 1年次に学んだ看護形態機能学(循環器系・呼吸器系)やこれから学ぶ疾病各論:循環器「うっ血性心不全」の病態について、Google Classroom上にUPしている課題に沿って自主学習し、予習・復習した内容をレポートにまとめ、学習ポートフォリオに整理する。 [復習] ・期間限定の「基礎知識確認テスト」に取り組む。	100分 10-15分
2	看護診断過程-2:スクリーニング [講義:小田日出子, GW: 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師] ・M.ゴードン「11の機能的健康パターン」を中心に、アセスメント・ツールの概要説明 ・「11の機能的健康パターン」;各パターンの意味とアセスメントの視点について解説	■全体講義 ■グループ学習活動	[復習] 授業後の振り返りとして、Google Classroom上にUPしている看護過程論「本日の課題」および「おさらいテスト-1」に取り組む。	60分 10-15分

3	<p>看護診断過程-2 :スクリーニングの実際① 事例(Aさん)の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 [GW:小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師] ・M.ゴードンの「11 の機能的健康パターン」に基づくデータベースのそれぞれの枠内に、紙上患者の基本情報を分類・整理する。 ・データベースの各パターンに分類・整理された情報を、各パターンのアセスメントの視点に沿って分析(解釈・判断)する。</p>	<p>■グループ学習活動</p>	<p>[予習] ・Google Classroom に up された事例紹介ビデオ(ロールプレイ)を視聴し、患者全体像のイメージ化を図ろう。 ・ビデオ視聴後の A さんの身体状態に関する気づきや発見、疑問点などをノートに整理しておこう。 目標 1. A さんがリアルにイメージできる。 目標 2. A さんの“からだ”のあり様が理解できる。</p>	100 分
4	<p>看護診断過程-2:スクリーニングの実際② 事例(Aさん)の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 [GW:小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師] ・「11 の機能的健康パターン」に基づくデータベースへの情報の分類・整理, 情報分析(解釈・判断) ・パターン間の関係性を考えながら、患者全体像を図式化する。 ・全体像の図式化, 全体像の概要を 1000 字程度に要約して記述する。</p>	<p>■グループ学習活動</p>	<p>[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 課題: 個人学習として「患者全体像」の図式化に取り組む。</p>	100 分
5	<p>看護診断過程-2 :スクリーニングの実際③ 事例(Aさん)の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。 [GW:小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師] ・「11 の機能的健康パターン」に基づくデータベースへの情報の分類・整理と情報の分析(解釈・判断) ・パターン間の関係性を考えながら、患者全体像を図式化する。 ・患者全体像の図式化を基に、全体像の概要を 1000 字程度に要約して記述する。 ・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む。 ・特定したパターンのフォーカスアセスメントに向けて必要な情報を収集・追加する。 ・1 つ以上の特定パターンをアセスメントし、問題の焦点を絞り込む。 ・分析結果をもとに看護問題を導き出す。</p>	<p>■グループ学習活動</p>	<p>[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 課題: 「患者全体像」の図式化の修正および全体像の概要(1000 字程度)の記述に取り組む。</p>	100 分
6	<p>看護診断過程-2:フォーカスアセスメント① アセスメントから看護問題の表明に至るプロセス(講義: 小田日出子) ・フォーカスアセスメントに必要な情報の追加と収集 ・看護問題表記の方法 ・看護問題のタイプ ・看護問題の優先順位の決定 ・問題リスト記載の方法 全体像から得た手がかりを基に紙上患者の看護問題を推理・推論(仮診断)する。 [GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]</p>	<p>■全体講義 ■グループ学習活動</p>	<p>[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 課題: 図式化した「患者全体像」の修正および全体像の概要(1000 字程度)の記述の仕上げに取り組む。</p>	100 分

	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む。 ・特定したパターンのフォーカスアセスメントに向けて必要な情報を収集・追加する。 ・1つ以上の特定パターンをアセスメントし、問題の焦点を絞り込む。 ・分析結果をもとに看護問題を導き出す。 			
7	<p>看護診断過程-2 :フォーカスアセスメント② [GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む。 ・特定したパターンのフォーカスアセスメントに向けて必要な情報を収集・追加する。 ・1つ以上の特定パターンをアセスメントし、問題の焦点を絞り込む。 ・分析結果をもとに看護問題を導き出す。 	■グループ学習活動	[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 課題: 「患者全体像」の図式化および全体像の概要(1000字程度)の記述を仕上げる。	100分
8	<p>看護診断過程-3: 看護問題の明確化(講義: 小田日出子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護問題の推理・推論(仮診断) 「気になる情報」から「疑わしい健康問題」へ ・情報の分析(解釈・判断)/統合 「疑わしい健康問題」から「看護問題」の特定へ ・看護診断の概念 ・診断の定義・診断指標・関連/危険因子と症状・徴候 ・看護問題の記述と診断ラベル ・共同問題という考え方 ・看護診断ハンドブックの活用方法 <p>看護診断過程(看護問題の明確化/看護診断)[GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ以上の特定したパターンの分析結果から、看護上の問題(看護診断)を導き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■全体講義 ■グループ学習活動 	<p>[予習] 「看護診断」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。</p> <p>[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 授業後の振り返りとして、Google Classroom 上にUPしている看護過程論「本日の課題」および「おさらいテスト-2, -3」に取り組む。</p>	100分 15-20分
9	<p>看護診断過程-3: 看護問題の明確化/看護診断 [GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ以上の特定したパターンの分析結果から、看護上の問題(看護診断)を導き出す。 	■グループ学習活動	[復習] 授業後の振り返りとして、自宅にて「看護診断」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。	60分
10	<p>看護診断過程-4: 計画立案① (講義: 小田日出子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と評価日の設定 ・看護介入計画の立案 ・観察計画(OP), ケア計画(CP), 指導/教育計画(EP) <p>[GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙上患者について、特定した看護問題を解決するための看護計画を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■全体講義 ■グループ学習活動 	<p>[予習] 「看護計画立案」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。</p> <p>[復習] 授業後の振り返りとして、自宅にて「看護計画立案」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。</p>	100分
11	<p>看護診断過程-5: 実施・評価 (講義: 小田日出子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護介入実施のステップ ・看護実践評価の視点と評価指標 ・看護過程における法的・倫理的課題; 講義 <p>[GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田) / 外部講師]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■全体講義 ■グループ学習活動 	<p>[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 授業後の振り返りとして、Google Classroom 上にUPしている看護過程論「本日の課題」および「おさらいテスト-4-, -5」に取り組む。</p>	10分 15-20分

	・紙上患者について、特定した看護問題を解決する手立ての1つとして、個別性のある援助計画を立案する。			
12	看護過程論:課題学習(個人)&GW[小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田)/ 外部講師] ・提示された課題を基に、個人で看護過程の一連のプロセス(アセスメント⇒看護問題の明確化→計画立案に至る過程)を展開する。 ・立案した看護計画(案)をグループ内で発表・共有する。 ・グループメンバー間のディスカッションを通して、立案した看護計画のブラッシュアップを図る。 ・メンバーの意見を加え、より個別的なケア計画に修正する。	■課題学習(個人) ■対面によるグループ学習活動	[復習] グループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。	10-15分
13	看護過程論:課題学習(個人)&GW[小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田)/ 外部講師] ・提示された課題を基に、個人で看護過程の一連のプロセス(アセスメント⇒看護問題の明確化→計画立案に至る過程)を展開する。 ・立案した看護計画(案)をグループ内で発表・共有する。 ・メンバー間のディスカッションを基に、看護ケア計画のブラッシュアップを図る。 ・メンバーの意見を加えてより個別的な看護計画に修正する。 ・自己および他者評価を受ける [GW: 小田 / 金山 / 隅田 / 石井 / 橋本(小田)/ 外部講師] ・看護過程論GWの成果発表と振り返り ・グループ内/グループ間のディスカッション ・自己評価・他者評価	■課題学習(個人) ■対面によるグループ学習活動	[復習] グループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。	10-15分
14	看護過程論:総括 ・授業全般のまとめ ・学習ポートフォリオの整理	■まとめ	[予習・復習] ・当該科目での学習のまとめとして、また自身の学習目標の達成度を客観的に確認・評価するための「筆記試験」に臨むためには、達成度評価の【知識・理解】で理想レベル、標準的レベルに示した「具体的な達成の目安」を参考に、授業での学び(知識・理解)を整理する。 ・一連の学習活動を通して学び得た知識や問題解決思考・論理的思考としての「看護過程」の展開方法を、各自の「学習ポートフォリオ」として整理し、提出できるように準備を整える。	100分 +α
15				
16				
17				

18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>看護師の思考過程であり、看護実践の方法論でもある看護過程の基本を学ぶ授業です。授業では「うっ血心不全患者」の事例を用います。事前準備として提示した「個人学習課題」(主に看護形態機能学;循環器系の復習と疾病各論;うっ血性心不全に関する基礎知識、及び心不全患者の看護(主に急性期の看護のポイント)の整理に取り組み、必要最低限の知識の準備をしたうえで授業に臨んでください。</p>			
テキスト	<p>★テキストとして、 ・茂野香ほる他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術1 第17版(医学書院) ・リンダ J.カルペニート=モイエ著、黒江ゆり子監訳:看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)</p>			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>★参考図書として、 ・ロザリンド・アルファロ・ルフィーヴァ著、本郷久美子監訳(2012):「基本から学ぶ看護過程と看護診断第7版」(医学書院) ・マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(2009):「アセスメント覚書 ゴードン 機能的健康パターンと看護診断」(医学書院) ・マージョリー・ゴードン、佐藤重美著(1998):「ゴードン博士のよくわかる機能的健康パターン—看護に役立つアセスメント指針」(照林社) ・松田直樹ほか著(2019):「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器(第15版)」(医学書院) ・浅野浩一郎ほか著(2019):「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器(第15版)」(医学書院) 上記以外については、必要時、その都度、紹介します。</p>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>・毎回の授業概要、講義・グループワーク関係の資料、課題など、必要な記録類は、全て Google classroom「看護過程論」のメインクラス(小田)の「授業」にアップロードしています。授業前日には、必ずメインクラスの「ストリーム」及び「授業」を確認し、必要な準備を整えてください。 ・基本的なことですが、授業(講義・グループワーク)の進行に沿って、各自、必要な準備を整えて授業に臨んでください。 ・事前の個人学習課題をはじめ、講義終了後に、皆さんが学んだ知識をどの程度理解できたかを確認できるように、数回に分けて、期間限定の「看護過程論～おさらい小テスト シリーズ(1)～(5)」を準備しています。学んだ知識の振り返りと定着化を目標に、大いに活用してください。 ・まずは、看護実践に必要な基礎知識・技能としての「看護過程展開能力」を学修する機会として、皆さんの主体的・積極的な取り組みを期待しています。</p>			

達成度評価に関するコメント	筆記試験(50%)、小テストの結果(10%)、個人学習/課題レポート(20%)、グループワーク中の発言、口頭説明の適切さ、及び授業全般を通しての学習貢献度(マインドセット、グループワークの参加状況・参加態度、個人学習への取り組みなど)(20%)により総合的に評価します。
---------------	---

